

平成 9 年度魚病診断結果

福永 稔・杉本善彦

平成 9 年 4 月から平成 10 年 3 月までに、養殖魚及び種苗生産の過程で発生した魚病について、水産試験場への持ち込みと、養殖場の巡回指導時に採取した検体の診断及び薬剤感受性試験を行った。

診断結果

診断結果を表 1 及び表 2 にまとめた。

内水面における診断件数は、アマゴ 25 件、アユ 309 件及びウナギ 8 件で総件数は 342 件であった。

アマゴでは、前年度同様にせっそう病の診断件数が多かった。アユでは、冷水病とシュードモナス病が診断件数の 72% を占め、ほぼ周年発生が見られた。また、本年度は種苗生産過程においてビブリオ病の発生が多く見られた。ウナギは、持ち込み数が減少しパラコロ病と寄生虫症が見られた。

海面における診断件数は、ブリ 5 件、ヒラメ 12 件、マダイ 6 件、その他の魚類 3 件及びクルマエビ 1 件で総件数は 27 件であった。

ブリでは、連鎖球菌症の他に 9 月にイリドウイルス症の発生が見られた。ヒラメでは、エドワジェラ症の診断件数が多く、3 月には天然魚で貧血症が見られた。マダイでは、前年度に続いてイリドウイルス症の発生が見られた。クルマエビでは、県内の養殖場で初めて PAV の発生が見られた。

表 1 平成 9 年度診断結果（淡水魚）

魚種 / 病名	月												計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
アマゴ													
せっそう病	1		6	2									9
細菌性鰓病	3	1											5
水カビ病											1		1
内臓真菌症										1			1
不明				4			3						9
小計	4	1	6	6			3			1	1		25
アユ													
冷水病	5	11	9	6		4	3	2	17	17	41	14	129
シュードモナス病	3	3	7	9	1	1	3		5	8	7	3	50
冷水病+シュードモナス病	7	9	5	2			2		4	4		1	34
冷水病+細菌性鰓病	2												2
冷水病+ヌカヒ病													1
シュードモナス病+イリドウイルス症			1										1
エロモナス症										3	2		6
ビブリオ病										8	7		15
水カビ病	1		1				1		4		2		9
不明	2			5	2	8	2		6	8	13	12	58
その他					1					2	1		4
小計	20	23	23	22	4	13	11	2	37	50	73	31	309
ウナギ													
パラコロ病		1	1										2
シュードモナス病				1	1								2
シュードモナス病						1							1
不明			1				1						3
小計		1	3	1	1		1						8
総計	24	25	32	29	5	13	15	2	37	51	74	35	342

表 2 平成 9 年度診断結果（海産魚）

魚種 / 病名	月												計		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
ブリ															
連鎖球菌症									2					1	3
イリドウイルス症								1							1
不明				1											1
小計				1			1	2						1	5
ヒラメ															
エドワジェラ症		1		1				2							4
連鎖球菌症								2							2
リンホシスチス病		2													2
スクーチカ症									1						1
貧血症														2	2
不明											1				1
小計		3		1			4	1			1			2	12
マダイ															
イリドウイルス症								2							2
不明		1	1	1					1						4
小計		1	1	1	2				1						6
カンパチ															
連鎖球菌症															1
小計															1
シマアジ															
連鎖球菌症									1						1
小計									1						1
ブリヒラ															
側腎症										1					1
小計										1					1
クルマエビ															
PAV							1								1
小計							1								1
総計	0	4	1	5	2	5	5	1	1	1	0	0	3		27

感受性試験結果

感受性試験結果の概要を表 3～8 に示した。

アマゴのせっそう病菌の薬剤感受性試験結果では、OTC・FF には全ての菌株が高感受性を示した。

アユの冷水病菌の薬剤感受性試験結果では、前年度同様に SA・FF には全ての菌株が高感受性を示したが、SMMX・SO・OA には低感受性を示す菌株や感受性が無い菌株が見られた。また、シュードモナス病菌については、前年度同様にほとんどの水産用医薬品について感受性がなかった。

ウナギのパラコロ病菌の薬剤感受性試験結果では、FF には全ての菌株が高感受性を示したが、OTC・OA には低感受性を示す菌株が見られた。

ブリの型連鎖球菌の薬剤感受性試験結果は、FF には全ての株が高感受性を示したが、OTC・SPM・LM・EM には低感受性を示す菌株や感受性が無い菌株が見られた。

ヒラメのエドワジェラ症菌の薬剤感受性試験結果は、NFS には全ての株が高感受性を示したが、OTC には低感受性を示す菌株や感受性が無い菌株が見られた。

表3 薬剤名

記号	薬剤名	記号	薬剤名
SMMX	スルファモトキシム	DOXY	ドキシサイクリン
SA	スルフィソール	SPM	スピラマイシン
SO	スルファモトキシム・オリメトロム	LM	キサマイシン
NFS	ニフチル酸ナトリウム	EM	エリスロマイシン
OTC	オキシテトラサイクリン	OA	オキシリン酸
		FF	フロルフェニコール

表4 アマゴから分離したせつそう病菌の薬剤感受性試験結果

感受性程度	SMMX	OTC	OA	FF
+++	1	4	1	4
++			3	
+				
-	1			

表5 アユから分離した冷水病菌の薬剤感受性結果

感受性程度	SMMX	SA	SO	OA	FF
+++	20	27	2	5	28
++	3		1	5	
+				7	
-	5		5	7	

表6 ウナギから分離したパラコ病菌の薬剤感受性結果

感受性程度	SMMX	SO	OTC	OA	FF
+++		2	1	1	2
++				1	
+			1		
-	2				

表7 プリから分離した型病菌の薬剤感受性結果

感受性程度	OTC	DOXY	SPM	LM	EM	FF
+++	2	2			2	4
++	1	2	1	1		
+			1	2		
-	1		2	1	2	

表8 ヒラメから分離したパラコ病菌の薬剤感受性結果

感受性程度	NFS	OTC
+++	3	1
++		
+		1
-		3